

1 良き職業人になる

分掌	分掌の目標 分掌業務内容等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	次年度 方針	改善方法 または方法
1 教務課	科目選択の指導計画の工夫	学年主任、専門科長、進路課と連携し、生徒への説明資料をわかりやすく工夫したり、必要に応じて進路検討会を実施する。	生徒が自身の進路にあった科目選択をすることができる。	科目選択説明会において、1年生に対する具体的な説明を行った。専門科にまかせていた進路検討会を全体で実施予定	a	1年生の科目選択説明会を行い、生徒の資質や進路希望を丁寧に見て、検討することができた。	a	継続	来年度も、今年の結果を踏まえて、実施方法の改善をした上で引き続き、科目選択説明会を実施したい。
2 生徒課	生徒の自主活動の支援により、自立・自律を促す。	あいさつ運動	あいさつ運動 3回/月以上 委員会ごとの参加率70%以上	月3回は現状未達成。月2回は達成している。	b	月2回は達成。	b	継続	次年度はより確実に月3回(7、8月は除く)実施し、参加人数も増やしたい。
3 生徒課	校内巡視(授業中・昼休み等)の強化	生徒との心の通った関係を構築、保護者や関係機関との連携強化、巡視強化と各課科との情報共有に務め問題行動を未然に防ぐ。	生徒指導件数 50件以下 遅刻率3%以下	生徒指導件数 15件 遅刻率2.2%	b	生徒指導件数 30件 遅刻率 3.4%	b	継続	生徒指導については、引き続き校内外の巡視等で未然防止に努めたい。遅刻率の改善に努めたい。
4 進路課	就職希望者への進路指導	担任、各科の先生と情報共有を行いながら、応募前職場見学の励行、クレペリン検査対策、オンライン面接に向けての事前指導を行う。	就職希望者の一次内定率90%以上	企業からの合否待ち。	a	一次内定率94.5%であり、最終内定率100%であった。また、公務員も7名合格であった(市町村3名、警察1名、自衛隊3名)。	a	継続	面接対策の強化。公務員講座の継続的な開催。
5 教育相談室	「いのちの教育」の推進	毎月スクールカウンセラーを講師に開催する研修会で心理学の理論と人間関係を構築するスキルを学び、生徒と積極的に関わりするためのツールとしてもらう。	毎月の研修会への参加者が20%以上(教職員70名中)	8月24日の研修の参加者は34名(48%)、その他の月は、15名(21%)程度であった。	b	研修会への参加者が10%から20%と月によってまちまちだった。指導的立場の主幹教諭および指導教諭の参加が一度もなかったのがとても残念だった。	a	継続	
6 1年団	挨拶指導の充実	教員が率先して、範を示す	生徒意識調査「ややあてはまる」以上が75%以上	生徒意識調査はまだ実施していないが挨拶指導はできている。	b	アンケート未実施の現時点で主観的評価となるが、生徒の6~7割程度は、出来ている。その中の2割程度は、大変よく出来る。	b	改善	学校生活での「挨拶・身だしなみ」を社会人マナーとして評価することの大切さを味わわせる指導を実践する。
7 1年団	基本的生活習慣の確立	授業やLHRを通して、ルールを守らせる継続指導	遅刻率2%以下 欠席率2%以下 年間皆勤率25%以上 年間指導件数20件以下	継続中 遅刻率1.49% 欠席率1.24% 皆勤率35% 年間指導件数6人/6件(全て:7月一杯)	b	遅刻率2.8% ▼ 欠席率1.7% ○ 皆勤率25.7% ○ 年間指導件数12人/12件(全て:12月一杯)○	b	継続	基本的生活習慣の確立・社会性の伸長を重視した取り組みを更に追求する。
8 2年団	挨拶指導の充実	教員が率先して、範を示す	生徒意識調査「ややあてはまる」以上が75%以上	生徒意識調査はまだ実施していないが挨拶指導はできている。	b	挨拶指導はできているが、意識調査の結果はまだである。	b	継続	生活指導のためには必要である。
9 2年団	基本的生活習慣の確立	授業やLHRを通して、ルールを守らせる継続指導	遅刻率2%以下 年間皆勤率25%以上 年間指導件数16件以下	遅刻率3.68%、欠席率2.17%、年間指導件数6件	c	遅刻率は4.3%、年間皆勤率は14.1%、指導件数は7件	c	継続	遅刻・欠席が多かった。生活習慣を引き続き指導していく必要あり。
10 3年団	挨拶指導の充実	教員が率先して模範を示す	生徒意識調査の「ややあてはまる」以上が75%以上	生徒意識調査はまだ実施していないが挨拶指導はできている。	b	挨拶指導はできているが、意識調査の結果がまだである。	b	継続	生徒の指導上、必要である。
11 3年団	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立	遅刻率2%以下、欠席率2%以下、年間皆勤率25%以上、年間指導件数14件以下	遅刻率1.73%、欠席率1.18%指導件数3件である。	a	遅刻率3.4%、欠席率1.8%、皆勤率31%、指導件数10件である。	b	継続	遅刻する者が多く、生活習慣を引き続き指導していく必要がある。
12 建築科	生徒の状況把握	公開授業等で建築科各クラスの授業参観を行い情報共有を行う。生徒の活動を観察し、生徒の努力や成果を称える。	授業参観を年間2回以上実施。内容や成果を科会等で共有し生徒に伝える。掲示板に表彰等掲示する。(年間10回以上)	公開授業月間に授業参観を実施。科会にて生徒の情報共有。掲示板(ブログ)8月末、掲載回数6回。	a	公開授業月間・研究授業に授業参観を実施。科会にて生徒の情報共有。掲示板(ブログ)1月末、掲載回数9回。	a	継続	引き続き生徒の情報を全教員で共有し、生徒の活動を観察し、生徒の努力や成果を称えていく。
13 土木科	生徒の状況把握	土木科各クラスの授業参観を適宜行って情報共有を行う。生徒の活動を観察し、生徒の努力や成果を称える。	授業参観を年間2回以上実施。内容や成果を科会等で共有し生徒に伝える。	中川:5回、御船:2回 井上:2回、稲本:2回 高原:2回、片山:2回	b	中川:8回、御船:4回 井上:5回、稲本:5回 高原:4回、片山:5回 生徒の活躍及び授業中の姿勢について共有し、生徒に伝達する内容が教員間で一致した。	a	継続	引き続き授業参観を行い、生徒の状況を共有し、生徒の努力や成果を称えていく。
14 工業化学科	授業規律の確立	授業参加への準備、心構えを持たせ、社会人としての意識向上を目指す。	遅刻・授業退出を日平均5%以下とする。	統計中	b	統計中であるが、5%は達成できていない。	c	継続	

## 1 良き職業人になる

	分掌	分掌の目標 分掌業務内容等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	次年度 方針	改善方法 または方法
15	デザイン科	生徒の状況把握	デザイン科各クラスの授業参観を適宜行って情報共有を行う。	授業参観を年間2回以上実施。内容や成果を科会等で共有し生徒に伝える。	授業参観1回50%	b	授業参観 1回57% 2回以上43%	b	改善	参観という形以外でも生徒の把握を行い情報共有していく。
16	ロボット電気科	始業時・就業時のあいさつの励行指導	授業開始・終了時の挨拶を徹底する。	全員、声に出して挨拶ができるとともに、お辞儀の動作がきちんとできる。	8割程度の完成度。昨年よりは良いが継続した指導が必要。	b	8割程度ができている。	b	継続	進学・就職に絡めて意識を高める指導をする。
17	数学科	主体性の育成	数学的思考の良さ、数学的見方の大切さを授業を通して伝える。数学検定を勧め、数学力のさらなる向上を図る。	数学検定準2級の合格者、準2級の1次合格者合わせて10名以上(6月と1月 年2回検定実施)	6月3級1名合格、準2級1次1名合格。 1月も積極的に呼びかけ、合格者を増やしてく。	c	1月は、規定の人数が集まらず試験が実施できず。合格者1名	c	改善	検定の意義や情報を周知する。まずは受験者の増加を目指す。
18	保健体育科	基本的な生活習慣の確立	授業規律を確立する	担当教員による評価80%以上	多くの生徒が、挨拶ができ、服装等も整っている。	b	冬場になり、服装や挨拶が不十分なところがみられた。	b	継続	継続して指導する。
19	芸術科	鑑賞教育	多くの作品を鑑賞する活動を設け、多様な価値観があることに気づくことができる指導を行う	鑑賞活動を年間6回以上行い、生徒同士で意見交換する機会を4回以上行う。	鑑賞活動を4月から3回以上行い、生徒同士で意見交換する機会を2回以上行うことができた。	a	鑑賞活動を年間6回以上行い、生徒同士で意見交換を行う活動を4回以上行うことができた。	a	継続	鑑賞活動の回数を段階的に増やし、共同的な学びの充実を目指す。
20	芸術科	他者理解	鑑賞活動の中で生徒間の話し合い活動を活発に行い、自己理解と他者理解の中で、作品を批評的に鑑賞する取り組みを行う	生徒相互で鑑賞作品や自分の作品について意見交換を行う活動を年3回以上行う。	生徒相互で鑑賞作品や自分の作品について意見交換を行う活動を2回以上行うことができた。	a	生徒相互で鑑賞作品や自分の作品について意見交換を行う活動を年3回以上行う。	a	継続	自他の見方・考え方の違いに気づき、自己の表現に活かしていこうとする態度の育成を目指す。
21	外国語科	授業規律の確立	教材準備など授業環境を整える力を身に付けさせるとともに、授業開始終了時の挨拶を徹底するなど、授業に取り組む姿勢を整える。	教材が整い、授業に対する姿勢ができている。	教材準備や挨拶は毎時間の呼びかけが必要。	b	クラスや学年によって達成度は異なるが、繰り返しの呼びかけを実施し規律を保った。	a	継続	分かりやすい授業で英語に対するモチベーションを少しでもあげたい。

2 社会で通用する豊かな力を身につける

分掌	学校経営目標	分掌の目標 分掌業務内容等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	次年度 方針	改善方法 または方法
1 教務課	社会で通用する豊かな力を身につける	授業改善に向けた取組み	指導教諭、GIGAスクール推進室と協力しながら、公開授業やLCT活用の研修等、具体的な取組みを図る。	・公開授業の実施(1回以上/年) ・ICT活用等の研修・共有(1回以上/年)	・公開授業を5月に実施	b	公開授業を実施できた。	b	継続	よりよい研究授業のあり方を、来年度の情報室と連携して実施できればと考える。
2 生徒課	社会で通用する豊かな力を身につける	部活動(生徒への啓発)の活性化	魅力ある部活動DVD・パンフレットの作成および部活動情報も盛り込んだ生徒会新聞の発行。	部活動加入率(1年80%以上・2・3年60%以上)、生徒会新聞 3回/年以上	生徒会新聞は2度発行	b	生徒会新聞3回発行(1月中旬に3回目を発行)	b	継続	次年度は5回以上の発行を目指す。
3 生徒課	社会で通用する豊かな力を身につける	峰南祭体育および文化の部の準備・実施	峰南祭体育および文化の部の早期計画、科ごとの計画、安全対策。	安全で充実した体育の部・文化の部が実施できた(教員・生徒アンケート)。	コロナ対策を行いながら実施できた	b	来年に向けての反省ができた	b	継続	より内容を充実させ、思い出に残る行事にしたい。
4 進路課	社会で通用する豊かな力を身につける	進学指導体制の充実(担任/教科への依頼)	国公立大学進学者を輩出するために、補習等を充実させる。また、大学調べ、個別学習を進める。	国公立大学進学者1名以上	現在、国公立希望者は3名。担任・各科・進路課で取り組んでいる。	b	今年度、2名受験し2名不合格。	c	改善	3年間を通じて継続した指導。
5 進路課	社会で通用する豊かな力を身につける	進学指導体制の充実(担任/教科への依頼)	分析会を通じて、個々の生徒への声かけ、学力の底上げを図る。	基礎学力診断テストDゾーンの減少	長期休業課題やGKIの問題とも連携しながら基礎力向上を目指している。9月結果持ち。	b	Dゾーン(4月279名→9月293名)	c	継続	GKIや学年を通じての継続した取り組み。
6 進路課	社会で通用する豊かな力を身につける	進路LHRや総合的な探求の時間の教材の企画・準備	インターンシップや進路講演会等を活用し、生徒のキャリア教育の推進を図る。	インターンシップの参加者を前年度より増やす。	参加希望者89名、実際の参加者84名であり、例年並であった。コロナ関係による企業からのお断りがあり、5名の生徒が参加できなかった。	b	参加者は例年並みであった。2月1日に、1年生へ向けた報告会を実施する予定である。	b	継続	進路課・専門科・担任との連携。
7 GIGAS推進室	社会で通用する豊かな力を身につける	ICT機器を学習ツールとして効果的に利用する授業改善	教務課、指導教諭と連携して公開授業やICT活用研修を実施すること。	1人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケートにおける端末活用状況  前年度を上回る=A、同程度=B、下回る=C	十分とは言えないが、少しずつICT活用環境の整備が進んでいる。積極的にICT活用を進めている状況も一部に見られる一方、活用に苦慮している状況、活用に消極的な状況も見られる。達成基準としているアンケートは実施不十分なため評価が難しい。	b	比較可能なアンケート項目のR3第3回、R4第1、2回を集計した。「半数以上の授業で端末活用」教員は26%→30%→39%と向上。一方、「毎日端末を活用する授業がある」とした21入学者は59%→57%→57%と微減。22入学者は33%→43%だった。また、R4第2回では「もっと活用してほしい」「もう少し活用してほしい」と活用を求める生徒が21入学者は82%、22入学者は90%だった。	b	継続	目標の根拠は「主体的・対話的で深い学び」や「学びの個別最適化」における効果的なICT活用である。目標に向けて、先ず教員のICTスキル向上とICT活用に適した環境整備、次に分掌横断的な授業改善の取り組みが本校の当面の課題であり次年度以降の目標となる。令和4年度に一定程度実施できた公開授業や研究授業等を更に進めるとともに教科毎の特性に合った教材研究や研修を進めることが必要である。
8 1年団	社会で通用する豊かな力を身につける	5文筆独自進路実現への工夫の問題集への取り組みで、クロームや携帯電話で生徒が問題解決に興味をもてる環境を整える	クロームや携帯電話で、問題演習が出来る環境とテスト後の自己評価と相対評価が出来る環境を整える	学年末にアンケート実施により、「活用して意欲が出た」が60%以上	アンケート未実施。朝読の取り組み等を利用して基礎学力の充実をさせている。	b	特に、クラス内の競争原理になりやすい学習自己評価を学年全体にまで拡充した。また、成績上位者については、学年会で表彰した。特に、この内容で生徒と話が盛り上がったことから、新たな生徒の学習の頑張りや目標、さらには生徒指導情報が聞けたし、しっかり褒めてやる事ができた。	a	改善	生徒個人の成績情報の管理と相対評価のあり方を慎重に検討する。「はじめの第一歩」の成績の推移と取り組みの様子を利用することに統計上の根拠を加えて学習させることにより、より客観的な評価を生徒個々にさせた上でクラス全体評価を加える。
9 建築科	社会で通用する豊かな力を身につける	ものづくりコンテスト木材加工部門に出場	地域の人材を活用(外部講師等)。	中国大会出場	ものづくりコンテスト木材加工部門県大会へ2名出場。結果は第3位・第4位(中国大会出場ならず)	b	ものづくりコンテスト木材加工部門(中国大会出場ならず)技能検定へ向けて、外部講師(マイスター派遣制度)を7回(21時間)活用した。	b	改善	木材加工に取り組む生徒数が減少傾向にある中で、ものづくりコンテスト木材加工への取り組みだけでなく、生徒の活動内容を広げていきたい。(設計コンペ、設計競技会など)
10 建築科	社会で通用する豊かな力を身につける	各種資格・検定に挑戦	放課後補習の実施。技能士などの実技指導は地域の人材を活用(外部講師)する。	計算技術3級90%以上 パソコン利用3級90%以上 建築CAD3級90%以上 2級建築施工管理技術検定30%以上	計算技術3級→39/76(現在合格率50%) パソコン利用3級→(12月実施) 建築CAD3級→(1月実施) 2級建築施工管理技術検定30%→(11月実施)	b	計算技術3級→53/76(現在合格率73%) パソコン利用3級→51/74(現在合格率70%) 建築CAD3級→(1/20検定実施) 2級建築施工管理技術検定30%→(1/20合格発表)	b	継続	今年度の結果を踏まえ、来年度の検定への取り組みに活かし、合格率を上げていきたい。

2 社会で通用する豊かな力を身につける

	分掌	学校経営 目標	分掌の目標 分掌業務内容等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	次年度 方針	改善方法 または方法
11	土木科	社会で通用する豊かな力を身につける	測量競技大会、コンクリート甲子園、製図コンテストに参加	授業及び放課後の指導により、競技会入賞及び中国大会入賞、全学年製図コンテスト入賞を目指す。	測量競技会中国大会入賞 コンクリート甲子園入賞 製図コンテスト各学年入賞	測量水準の部中国大会出場決定 コンクリート甲子園エントリー中 製図課題制作中	b	測量水準の部中国大会出場決定（大会中止）、コンクリート甲子園（4位/10校中）、製図課題制作中	a	継続	引き続き成果が得られるよう指導を行い、更に上位に入賞できるよう今年度同様指導を継続する。
12	土木科	社会で通用する豊かな力を身につける	2級土木施工受験	授業及び放課後の指導により、受験者の40%以上合格を目指す。	40%以上合格／選択者	10月23日（日）受験	b	10/30（1名コロナにより受験できず）33%合格	b	継続	今年度の結果から来年度に向けた検定への指導法を見直し、合格率を上げていきたい。
13	機械科	社会で通用する豊かな力を身につける	ものづくりコンテスト等に参加	ものづくりコンテスト（旋盤作業部門）、溶接競技会、ゼロハンカー大会への参加・入賞を目指す	旋盤部門で県大会出場 溶接競技会8位入賞 ゼロハンカー大会決勝戦進出	それぞれの部門で、上位入賞を目指して練習に励んでいる。	b	旋盤部門：県大会出場権獲得 溶接競技会：圧力容器19位、22位 31位 ゼロハンカー大会：第3次予選敗退	a	改善	コンテスト、競技会へ向けて指導方法の確立と練習時間の確保
14	機械科	社会で通用する豊かな力を身につける	資格検定・技能検定（旋盤・機械検査・機械保全）への挑戦	多くの資格検定に挑戦させる	計算技術3級90%以上／1年全 情報技術3級90%以上／1年全 基礎製図60%以上／2年全 機械製図50%以上／3年全 初級CAD50%以上／選択者	機械製図40名中36名 90% 基礎製図33名中29名 87% 初級CAD検定23名中19名 82% ※その他は今後実施	b	計算技術3級 85%/1年全 情報技術3級 49%/1年全 基礎製図 87%/2年全 機械製図 90%/3年全 初級CAD 82%/選択者（23名）	a	改善	概ね目標は達成できたが、合格率の向上を目指すための指導方法の確立が必要
15	工業化学科	社会で通用する豊かな力を身につける	資格取得の推進	資格取得の増加を目指し、授業及び放課後の学習支援を行う。	乙種第4類危険物取扱者30名合格、ジュニアマイスターへの挑戦	乙種合格者については1年生10月受験、ジュニアマイスターについては後期申請の予定	b	危険物乙種第4類3年31名、2年25名3年2年合計71.8%の生徒が取得。2月に第3回目に受験あり。	a	改善	1年生の積み重ねで、工業化学科全体の底上げを行い、資格取得を科の柱に置く。
16	デザイン科	社会で通用する豊かな力を身につける	検定に主体的に取り組む雰囲気作り。	授業及び放課後の指導により、年間1つ以上の検定合格を目指す。	1・2年生の1つ以上の検定合格者50%	検定合格 1年68% 2年43%	b	検定合格 1年68% 2年43% 1月の検定の結果待ち	b	継続	進路にからめて検定に対する意識を高める。
17	ロボット電気科	社会で通用する豊かな力を身につける	資格取得の励行指導	資格取得、ものづくりコンテスト、ロボットコンテストへの参加を促す。	・計算技術検定3級合格率80%(R1全員) ・情報技術検定3級合格率80%(R1全員) ・基礎製図検定合格率80%(R2全員) ・第二種電気工事士合格率65%(R2電気コ-ス) ・シーケンス制御3級技能士合格率60%(R2ロボ-ットコ-ス) ・ものづくりコンテスト電気工事部門参加 ・つやまロボコン参加	・計算技術検定3級 合格率87.5%(35/40) ・情報技術検定3級 1月受験予定 ・基礎製図検定 合格率68%(19/28) ・第二種電気工事士上期合格率11.1%(2/18) 下期10月受験予定 ・シーケンス制御3級技能士1月以降受験予定 ・ものづくりコンテスト電気工事部門2名参加 ・つやまロボコン5チーム参加予定	b	・計算技術検定3級 合格率87.5%(35/40) ・情報技術検定3級 1月受験予定 ・基礎製図検定 合格率68%(19/28) ・第二種電気工事士上期合格率11.1%(2/18) 下期結果待ち ・シーケンス制御3級技能士1月受験予定 ・ものづくりコンテスト電気工事部門2名参加 ・つやまロボコン5チーム参加	b	継続	反復練習を強化する。また、検定や資格試験の練習をきっかけに、ものづくりコンテストへの参加につなげる。
18	国語科	社会で通用する豊かな力を身につける	基礎力向上を目的とした取り組みを年間を通して行う。	授業はじめの約15分を基礎力向上のための活動に充てる。	定期考査の、漢字の読みや書きとり等知識問題に関する設問の得点率各学年で70%以上	現時点では、1年生は56%、2年生は66%、3年生は73%である。	b	知識問題に取り組む時間を毎時設け、得点率向上を目指した。2学期末時点で得点率70%以上の学年は3年生のみであるため、改善のための新たな取り組みを考えていきたい。	b	改善	授業中の取り組みだけでなく、課題等も与え、得点率の向上を目指す。
19	国語科	社会で通用する豊かな力を身につける	表現力向上のための進路対策学習に加え、小論文や作文・調査書の添削を分担して行う。	進路課と連携し、就職試験において作文・小論文試験が課される生徒を募集し、補習の計画・実施をする。	年間2回以上の補習を行う。	補習は行っていないが、申し出のあった生徒に対して、個別に小論文指導を行っている。	a	申し出のあった生徒に対して、個別に小論文指導を行ったり漢字検定の案内をしたりと、生徒一人ひとりに合わせた取り組みをすることができた。	b	継続	引き続き、生徒一人ひとりに合わせた指導を行う。
20	国語科	社会で通用する豊かな力を身につける	GWE等のICTを効果的に活用し、わかりやすい授業展開を目指す。	GWE等を利用した課題配信等を年間5回以上行う。	年間5回以上行うことができる。（教員自己評価）	教科担当者全員が5回以上行うことができた。	a	教科担当者全員が5回以上行うことができた。	b	継続	引き続き、授業や家庭学習でChromebookを使用する機会を増やし、生徒の思考力・判断力・表現力の伸長を目指す。
21	地歴公民科	社会で通用する豊かな力を身につける	ICTの活用による視覚的支援・授業の効率化	ICTを活用し、生徒の学習の視覚的支援を行うとともに、classroom等を活用し、情報の共有や発信を図る。	すべてのクラスで週に1回以上ICTを活用して授業を行い、classroom等を学期に3回以上活用する。	すべてのクラスで、chromebookを使った視覚的な支援やclassroomを使った情報発信などができている。	a	教員側は概ねICTを活用した授業や課題配信などを行うことができてはいるが、生徒側の支援が必要なが多々あった。	a	改善	次年度は全員がchromebookを所有しているため、chromebookやGWSの使い方などについての指導の充実を今年度以上に図る。
22	地歴公民科	社会で通用する豊かな力を身につける	授業参観への参加	公開授業期間等を利用し、他教科および教科内の授業見学を通じて授業力向上および授業改善を図る。	他教科の授業を年間2回以上、地歴・公民科の授業を年間2回以上見学する。学期に1回以上教科会議を開き、授業見学のフィードバック等を行う。	公開授業月間を利用した授業参観は達成することができた。参観を通じた授業力向上や授業改善については継続して評価する。	b	授業見学や教科会議は行うことができた。2学期以降も授業見学を行ったが、他教科の授業参観は実施できなかった。	b	改善	積極的に教科・他教科の授業を参観し、授業者にフィードバックを行う。また、得られたことを自らの授業に反映させる。

2 社会で通用する豊かな力を身につける

分掌	学校経営 目標	分掌の目標 分掌業務内容 等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	次年度 方針	改善方法 または方法
23	数学科	社会で通用する豊かな力を身につける	魅力ある授業づくり	授業参観を積極的にを行う。教科にとらわれず、様々な授業に参観し、授業改善に努める。	年間2回以上授業参観を行う。	a	年間2回以上の授業参観に加え、公開授業や初任研研究授業なども行い、魅力ある授業作りにつながった。	a	継続	継続して取り組む。
24	数学科	社会で通用する豊かな力を身につける	基礎学力の向上	授業初めに振り返り学習をするなど、反復学習を大切にする。生徒実態に応じた問題作成を行う。	日々の授業プリントの工夫やGoogle Workspaceの活用および評価	b	GWにおいては、リモート授業、補充授業、小テスト、グループ活動など多岐にわたり活用でき基礎力向上につながった。	b	継続	プリントとGWとを連携しながら継続して取り組む。
25	保健体育科	社会で通用する豊かな力を身につける	授業への生徒の主体的な参加	選択制授業の導入により、主体的に活動する。	生徒授業評価アンケート90パーセント以上	b	授業評価アンケートは実施できなかったが、主体的に活動する生徒は多く見られた。	b	継続	選択制授業の進め方を再検討する。
26	保健体育科	社会で通用する豊かな力を身につける	GWE等のICTを積極的に活用する	授業のなかで、ICTを積極的に活用し、わかりやすい授業展開を目指す	GWEの活用を年間5回以上	b	GWEの活用については、目標達成はできず、まだまだ不十分であった。	c	継続	教員のChromebookのスキルアップを図る。
27	芸術科	社会で通用する豊かな力を身につける	GWEの使用	音楽書道美術の3科目すべてで、クロームブックを使用し、表現と鑑賞に活用する。	GWEを学期に3回以上使用する。	a	GWEを学期に3回以上使用できた。	b	継続	GWEの使用を更に増やしていきたい。
28	芸術科	社会で通用する豊かな力を身につける	道具の理解	道具の適切な使用方法を学び、自己表現に活かすことができるよう指導する。	毎時、道具の管理、手入れを徹底する。	a	毎時、道具や管理、手入れを徹底できた。	a	継続	自主的に道具や管理、手入れを徹底できるように指導したい。
29	外国語科	社会で通用する豊かな力を身につける	分かる授業の展開	・分かる授業の展開の手立てとして、ICTの活用や教材の工夫に努める。	・毎時間のICTの活用と、毎時間の授業プリントの評価	b	・ICT活用で、スムーズな授業展開が可能となっている。 ・毎時間の授業プリントの評価は、生徒にとってのもルーションとなり安心感に繋がっている。	a	継続	GWSの活用のため、教員のスキルアップが必要。

3 地域との連携と保護者・地域への情報発信

分掌	学校経営 目標	分掌の目標 分掌業務内容等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	次年度 方針	改善方法 または方法
1 教務課	地域との連携と保護者・地域への情報発信	教育課程と連動した学校の魅力づくり	関係部署と協力し、カリキュラム・マネジメントの在り方や課題研究の深化について研究する。	先進的な取り組みをしている学校への訪問や、校内での情報収集、検討を行い、原案を作成する。	10月上旬に、県外の高校に3校訪問予定。文科省の研究指定校であった高校で、先進的な取り組み実践を伺うようにしている。	a	10月上旬に、先進的な取組を実施している県外の高校3校を視察。専門科長、管理職に報告、共通理解を図った。	a	継続	令和6年度の課題研究等におけるカリキュラム・マネジメントの実現に向けて、具体的な案の検討を行う。
2 教育相談室	地域との連携と保護者・地域への情報発信	思春期サポート事業の情報発信	思春期の子供との関わり方などを津工ブログなどで情報発信して、保護者との信頼関係を構築する。	各学期に2回の情報発信	1学期の情報発信は0回 2学期は10月2回、11月2回、「子育てひとくちメモ」としてHP上で情報発信を行った	b	合計9回「子育てひとくちメモ」として情報の発信を行い、「各学期に2回の情報発信」という目標をクリアした。	a	継続	
3 1年団	地域との連携と保護者・地域への情報発信	保護者への情報発信	学年通信・クラス通信による情報発信	学年通信・クラス通信を年9回以上発行する	現在、4回以上の発行	a	年度途中であるため結果を推測するにとどまるが、数的達成はクリアする。ただ、担任が作成する通信内容や表現について、個人情報等の表記を控えた方が良好として指導した件数が3件あった。	a	改善	本年度の表現不備な事例を基に、来年度当初の学年オリエンテーションで注意喚起する。出来れば本校の新採用研修において、周知徹底してほしい内容だと思われる。
4 2年団	地域との連携と保護者・地域への情報発信	保護者への情報発信	学年通信・クラス通信による情報発信	学年通信・クラス通信を年9回以上発行する	現在学年通信3回、クラス通信1回は発行している。	a	学年通信5回、クラス通信は多いクラスでは10回以上発行できている。	a	継続	学年通信・クラス通信を現行通り発行する。
5 3年団	地域との連携と保護者・地域への情報発信	保護者への情報発信を積極的に進める	学年通信やクラス通信による情報の発信	学年通信とクラス通信を合わせて年間9回以上発行する。	現在のところ、学年通信4号、クラス通信2号を発行している。	a	1月13日現在、学年通信は7号、クラス通信は4号、合わせて、11号発行している。	a	継続	学年通信・クラス通信を現行どおり発行する。
6 建築科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	地域貢献	学んだ知識を生かし、県産材などを使い地域に貢献できるものを制作し活用してもらう。	地域の施設等に納入1箇所以上オープンファクトリーの実施	課題研究にてベンチを製作中。オープンファクトリー・まちなかカレッジCAD講習の実施。	a	課題研究にてベンチを製作完成した。ベンチの寄贈先を選定中。オープンファクトリー・まちなかカレッジCAD講習・出前授業の実施。	a	継続	引き続き、ものづくりを通して地域に貢献できることを継続していきたい。
7 機械科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	オープンスクールにおける魅力発信	オープンスクールを充実させることで、機械科の学習内容と魅力を伝える	体験内容を充実させ、志願倍率を向上	4ショップ実施。中学生が興味・関心を持てるよう、実習内容を検討する。	a	4つのショップで実施し、実習体験の満足度は、達成できた。	a	改善	引き続き、オープンスクール等で機械科の魅力を発信していく。また、随時、体験内容の見直しも考える。ホームページの更新。
8 機械科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	津山ステンレスネットと連携（行政・企業）	ものづくりコンテストに向けての実技指導 企業との地域交流	ものづくりコンテスト上位入賞	企業との交流会を実施。今後、実技指導を行う。	b	地元企業を知るきっかけとなり進路選択の一助となった。月2回程度、実技指導を行い、高い技術を習得できたが上位入賞には至らなかった。	b	改善	引き続き、地元企業と連携し地域を担う人材を育成する。また、企業先での実習体験等も検討していく。
9 工業化学科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	出前授業、地域貢献活動の実践	学んだ知識を活かし、地域で活動の場を広げる。	オープンファクトリーの実施 出前授業の実施	オープンファクトリー8月実施済3年生の参加8名、出前授業10月、11月実施予定	a	出前授業2回実施、オープンファクトリー実施。合わせて竹林整備4回、児島湖ヨシ刈り清掃活動を実施した。	a	継続	1つ目の柱である資格取得に次いで地域貢献を2つ目の柱とする。
10 デザイン科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	デザイン科を地域にわかりやすく伝える。	デザイン科のリーフレット等を制作・配布し、中学生や地域にわかりやすい広報活動を行う。	年間3回以上の作成。津工オープンファクトリー、オープンスクール、デザイン科紹介展などで配布・紹介。	オープンスクールでリーフレットを配布1回。授業動画紹介。	b	リーフレット配布1回（OS） 授業動画紹介2回（OS,紹介展） 在校生から中学生へのメッセージ（中学校宛の紹介展案内に同封）	b	継続	内容の見直し。課題研究の冊子の広報版を作成。
11 ロボット電気科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	出前授業の実施	主体的な参加を促し、ものづくりの楽しさを人に伝える体験をさせる。	オープンファクトリーおよび出前授業の実施	オープンファクトリー 8/5に本校で実施済 出前授業 10月、11月に実施予定	b	オープンファクトリー 8/5に本校で実施 出前授業 10/24、11/21の2日間実施（勝加茂小学校）	a	継続	生徒のアイデアを活かした取り組みをする。

5 分掌独自

5	分掌	学校経営 目標	分掌の目標 分掌業務内容等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	評価	次年度 方針	改善方法 または方法
1	教務課	分掌独自	業務内容・分掌の再 整備に向けた準備	教務課の業務内容について、見 直し・改善を行う。	・教務課会議の実施（5回以上/年） ・分掌案の作成	・教務課会議を現在3回実施。今後 も実施予定。 ・来年度の情報系の再編を検討中	b	教務課会議を5回実施。来年度に向け た分掌変更も行った。	a	B	廃止	
2	総務課	分掌独自	各式典（学校行事） の計画と運営	各式典(入学式、卒業式、始・終 業式の確実な運営	感染状況(ステージ)に応じた実施体型をと る。	1学期始業式は体育館で実施。 その他は、meetを活用した。	a	感染状況（ステージ）が良好となら ず体育館での実施は1回となった。 始業式・終業式は、meetを活用した がスムーズな行事進行であった。	a		継続	
3	生徒課	分掌独自	服装頭髪指導（月初 め・式後等）	教員間の協力と連携強化（問題 意識の共有と協働的アプロー チ、課・科・学年団との連携）	帰宅指導10人以下	帰宅指導0人	b	帰宅指導3人	a		継続	帰宅指導がないように事前指導に努 める。
4	生徒課	分掌独自	交通ルールの啓発	交通ルールの遵守とマナーの向 上（LHR等の啓発活動、自転車 マナーの巡回指導、交通委員会 の活性化）	交通事故0件	交通事故 1件 （自転車同士の衝突）	b	交通事故 2件 （自転車同士1自動車1） 交通委員会（委員会6回、自転車点 検8回/年、花壇整備）	b		継続	交通事故と合わせて交通マナーの改 善策として月1回SHRでできる交通 セミナーショートワークショップの 実施。
5	1年団	分掌独自	学校生活のスマール ステップアップ	3年間を見据えた学年集会の開 催	毎学期2回以上の学年集会の開催(生徒司 会)「はじめの第1歩」を使った振り返り 学習得点平均70点以上	計画以上に実施できている	a	「はじめの第一歩」を回収するのが 学年末なので、全体的な評価は出来 ていないが、概ね良好だと推測す る。但し、担任指導が徹底してない クラスがある。	b		継続	「はじめの第一歩」の改善が必要と なる。
6	1年団	分掌独自	生徒の進路意識高揚	学年主任による1年生全員面接	概ね、1学期中に実施完了	計画どおり実施済み	a	特に、問題なし。あえて言うなら、1 年生の時から、放課後の面接時間の 確保が出来ない生徒がいる。このこ とは、アルバイトにあると聞く。	a		改善	1年生の時の面接が非常に大切である ことから、面接内容の精選と時間の 確保を軸に、担任面接とは異なる 切り口から入る。中高連絡会に関す る事柄も含めた面談とする。面接句 間とは、期間合わせない。
7	1年団	分掌独自	進路実現への工夫	2学期より、共通問題集(SPI)に より定期テストを実施する。また、 生徒の自己評価と相対評価を クロームや携帯電話で把握でき る環境を整える	70点以上を学年の20%以上とする	2学期よりSPI・数学・英語の学習を スタートし、中間考査・期末考査で 振り返りテストを行い、相対評価・ 自己評価を行う。	a	学習内容やテスト問題作成、テスト 後の考察に十分な時間をかける事が 出来ていない。	b		改善	今年度は、学年全体で取り組む事を 到達目標にしたが、次年度は学習内 容の精選と基礎テスト結果の考察を 大切にする。3年生と競争させる。
8	1年団	分掌独自	第3担任の任務	SHR・LHR・学年集会の協力	SHR・LHR：繁忙期、緊急対応、学期始 め、担任からの応援要請による 学年集 会：学期2回年6回程度	学年主任会を計画的に開き、各クラ スへの対応ができるように準備して いる。	a	学年主任会が発信することはあって も、他の分掌からの要請や問題提起 は、ほぼなしの状態であった。	b		継続	新型コロナによる学校諸活動の低迷 は、まだまだ続くことが予想される ことから、今年度程度の学年に対 する指示や指導系統は必要だと考え る。
9	2年団	分掌独自	学校生活のスマール ステップアップ	3年間を見据えた学年集会の開 催	毎学期2回以上の学年集会の開催(生徒司 会)「はじめの第1歩」を使った振り返り	1学期2回開催。継続中	a	2学期も2回開催できている。3学 期も1回実施。	a		継続	生徒司会によって自主性を育てる。
10	2年団	分掌独自	生徒の進路意識高揚	学年主任による2年生全員面接	概ね、1学期中に実施完了	約60%実施済み	b	進学希望者の面接はできたが、就職 希望者全員はできていない	b		継続	面接句間に位置付ける。
11	2年団	分掌独自	進路実現への工夫	共通問題集(SPI)により定期テ ストを実施する。また、生徒の自 己評価と相対評価を Chromebookで把握できる環境 を整える	70点以上を学年の20%以上とする	2学期よりスタート	b	ICTによって実施。集計はまだでき ていない。	b		継続	継続をすることで学力向上を図る。
12	2年団	分掌独自	公務員対策の実施	業者による公務員対策の実施。 各クラスへの呼びかけを細かく 行う。	講座受講者を10人以上にする。	6～7人ではあるが、頑張って受講 している。	a	頑張って受講をしていた。さらに希 望者を増やしていきたい。	b		継続	公務員合格者を出す。
13	2年団	分掌独自	進学意識の向上	学年主任会主催のオープンキャン パス等に進学希望者を参加させ る。	進学希望者を募り、生徒及びその保護者 に大学等を実際に見学してもらう。	コロナ禍のため香川大学訪問は中 止した。近大高専の説明会は実施で きた。	b	コロナ禍のため香川大学の訪問は中 止した。近大高専の説明会は実施で きた。	b		継続	生徒の意識づけのためには必要な ものである。
14	3年団	分掌独自	国公立大学志望者の 個別指導	毎週木曜日の放課後に2名の国 公立大学を志望するものが集 まってともに学習をする。	国公立大学1名以上の合格者をだす。	国公立志願者の個別補習を継続中	b	4月から12月まで、個別に指導し たが、学校推薦型・総合型選抜とも に不合格となった。	c		継続	今後も難関校を志望する生徒には、 個別指導をする必要がある。
15	3年団	分掌独自	学力の向上	各担任により基礎学力の向上を 図る。	昨年の各クラスごとのGKIの平均点を 10%以上伸ばす。	事前に課題を出し、3学期のテストの 準備をさせている。	b	5つの科で目標を達成することがで きた。	b		継続	今後も、具体的に何%アップとい う、わかりやすい目標を設定すれ ば、生徒・教員も励みになると思 う。
16	3年団	分掌独自	公務員対策の実施	業者による公務員対策の実施。	公務員試験の合格者を5名以上とする。	7名合格	a	目標を達成することができた。	a		継続	専門学校との連携により、効果的に 公務員対策を実施できた。予算的に 問題ないなら、実施回数を増やした ほうがよい。

5 分掌独自

	分掌	学校経営 目標	分掌の目標 分掌業務内容 等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	評価	次年度 方針	改善方法 または方法
17	3年団	分掌独自	生徒の進路先の決定	進路先の未決定の者に対する面談	7月末までには、終了させる。	8月末で終了	a	生徒の進路希望を聞きながら、就職・進学で迷っている生徒にアドバイスをした。	b		継続	進路指導室以外に学年主任が面談をする部屋があればよいと思う。
18	3年団	分掌独自	進学・公務員希望者に対する対応	8月に業者による面接練習	8名以上の参加者を集め、参加者のアンケートの結果が「よかった」と答える生徒が8割以上になる。	当日、3年生は、9名の公務員希望者の参加があり、生徒たちは、講師の先生に対して積極的に質問をして大変充実した面接練習となった。生徒もよかったと答えた。来年度も実施すべきであろう。	a	専門学校と連携しながら、面接指導をすることができた。事前にどのような内容を実施するか等の打ち合わせをしていたため、生徒たちにも有意義なものになった。	a		継続	当日は、2名の講師の先生が指導した。9名という人数では、若干少ないのではないかと思ったが、人数が増えすぎると細部にわたる指導ができなくなるので多くても10名くらいの人数で実施すべきである。
19	土木科	分掌独自	授業規律の確立	授業準備や授業開始終了時の挨拶の徹底など、授業に取り組む姿勢を整える。	教材が整い、授業に対する姿勢ができていく。(授業評価アンケート)	授業評価アンケート未実施	b	授業評価アンケート未実施	c		継続	引き続き早めの教室入りをを行い、授業準備の促しを行う。同時に生徒の表情などを観察し、教員間で共有する。
20	デザイン科	分掌独自	授業規律の確率	生徒に授業の「あたりまえ」を定着させる。	授業開始までに準備・着席。挙手して発言。期限内の提出。	チャイムが鳴り終わるまでに着席できない生徒が各クラス20%程度。挙手して発言できない。	b	チャイムが鳴る前に教員が声掛けしても数名が遅れる。挙手して発言できない。	c		継続	授業準備の促し、指導を行う。教員間で情報共有する。
21	国語科	分掌独自	教科指導力の向上	自作教材の共有及び授業見学を行う。	年間2回以上の授業見学を行う。	教科担当者全員が2回以上の授業見学を行うことができた。	a	教科担当者全員が2回以上の授業見学を行うことができた。	a		継続	引き続き積極的に互いの授業を見学し合い、授業内容の改善を図っていく。
22	国語科	分掌独自	新教育課程に準ずるシラバス(1年生用)を作成し、円滑な移行を目指す。	教科書の選定及びシラバスの作成を行う。	生徒の実態に即した教科書の選定及びシラバスの作成を行うことができる。(教員自己評価)	次年度2年生の「言語文化」の教科書の選定を教科担当者全員で行った。今年度古典の授業がないことを考慮し、導入部分が丁寧に扱われている教科書を採用した。シラバス作成は3学期を予定している。	b	シラバス作成を教科担当者全員で行った。生徒の実態に即したものにするため、教科担当者間で積極的に情報共有した。	a		継続	教科担当者間で情報共有し、来年度実際に授業を行う中での反省等を踏まえ、再来年度のシラバス作成に活かしていく。
23	地歴公民科	分掌独自	課題プリント等の共有を図る	教科フォルダ内に課題プリントを共有するフォルダを作成し、共有を図る。	長期休業中の課題等を毎回フォルダに保存し、共有する。	長期休業中の課題等の共有はある程度できていても、普段の課題の保存・共有は十分にできてはいない。	b	課題をGWSを利用して配信することが多かったため、共有が十分になされていたとは言えない。	c		改善	今後もGWSを利用して課題配信が行われると思われるので、Googleドライブを活用して教材や課題の共有を図る。
24	外国語科	分掌独自	検定受験の呼びかけと補習	リスニング英語検定の教材提供と補習を実施する。	リスニング英語検定合格率全国平均+20% 準2級合格10名	10月中旬のリスニング検定に向けて、放課後の過去問体験を実施している。	a	リスニング英語検定合格率全国平均現時点未発表→1級合格者7名 準2級合格7名	a		継続	過去問の分析をさらに加え対策材料を充実させる。